

徳島県初記録のウミミズカメムシ

林 正美¹・山田量崇²・大原賢二²

[Masami Hayashi¹, Kazutaka Yamada² and Kenji Ôhara²: First record of *Speovelia maritima* Esaki (Hemiptera, Mesoveliidae) from Tokushima Prefecture, Japan]

キーワード：分布，海岸性昆虫

はじめに

ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki, 1929 は、岩礁や礫浜、海蝕洞の礫間などに生息する海岸性のミズカメムシ類である。本種は、1927年に和歌山県白浜町の海蝕洞から採集された標本に基づいて記載された (Esaki, 1929)。原記載以降、本種に関する知見はあまり知られていなかったが、1954年に伊豆諸島（八丈島・御蔵島・三宅島）および相模海岸で発見された後（青木, 1954）、五島列島（宮本, 1955）、高知県宿毛市沖の島（青木, 1958）、島根県浜田市（長見, 1958）、神奈川県鎌倉市（青木, 1958）から相次いで報告された。その後、

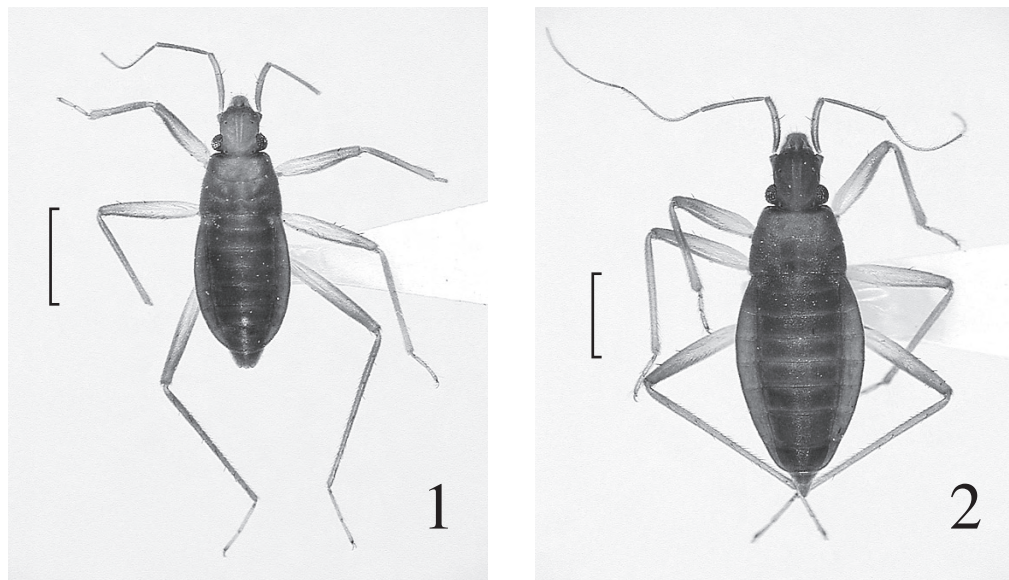


図 1-2. ウミミズカメムシ成虫，♂ (1) および♀ (2)。スケールは 1 mm.

2009年2月7日受付，2009年2月17日受理

¹ 埼玉大学教育学部生物学研究室，〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255. Department of Biology, Faculty of Education, Saitama University, Saitama 338-8570, Japan

² 徳島県立博物館，〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-chô, Tokushima 770-8070, Japan.



図3. 採集地（徳島県美波町木岐白浜海岸）. 矢印は海蝕洞.



図4. ウミミズカメムシが見つかった海蝕洞.

1980年に新潟県（日本野生生物研究センター，1981），1987年に岩手県（中村，2005）から確認されている。また，最近では2006年に島根県から49年ぶりに再発見され（林，2007），三重県からも報告された（矢崎・石田，2008）。このように，本種はこれまでに岩手県以南の本州，四国，九州から見つかったものの，局所的に分布する種であるといえ，その生態は未だ解明されていない。四国においては，高知県から報告があるのみで，それ以外の記録は全くなかった。

林と大原は，徳島県立博物館の課題調査の一環として，これまでに海浜性や淡水性の半翅類を中心とした調査を行ってきた（林・大原，2001；林ら，2003；大原・林，2004）。それらの調査の過程で，本種についても徳島県南部を中心に県内各地の海岸で調査を行ってきたが，2008年3月に徳島県美波町で本県初記録ならびに四国2例目となる本種を採集したのでここに報告する。

[調査地] 図6.

徳島県

鳴門市里浦町里浦大手海岸，2008年：3月30日，2008年10月4日，2008年10月26日

松茂町豊久月見ヶ丘，2007年12月3日，2008年9月21日，2008年10月26日

徳島市川内町小松海岸，2008年9月20日，2008年9月21日

徳島市北沖洲マリソピア沖洲，2008年10月4日

徳島市大原町大神子海岸，2008年3月29日

徳島市大原町小神子海岸，2008年3月29日

阿南市那賀川町上福井（那賀川河口），2008年3月29日，2008年10月26日



図5. ウミミズカメムシが見つかった岩壁と地上部が接する高潮位線付近の磯。

阿南市那賀川町淡島海岸, 2008年10月26日

美波町田井ノ浜, 2008年3月29日

美波町木岐白浜海岸, 2008年3月29日

兵庫県

淡路市生穂佐野新島, 2008年3月28日

淡路市大谷, 2008年3月28日

[被検標本]

1♂ (図1), 4♀♀ (図2), 徳島県美波町木岐白浜海岸, 2008年3月29日, 林正美 & 山田量崇 採集.

本種の生息環境として, 海蝕洞 (青木, 1954; 林・久芳, 1993; 林・宮本, 2005) や岩石地帯の礫間 (長見, 1958; 青木, 1958; 中村, 2005; 友国・林, 2006; 林, 2007) などが知られており, いずれも潮間帯から潮上部にかけての環境で見つかっている. 徳島県でも同様の環境から得られた (図3, 4, 5). 採集地である白浜海岸は, 美波町木岐に位置し木岐漁港と比較的広域な砂浜に隣接する岩礁地帯からなる. 本種が発見されたのは, 岩礁地帯の干潮線よりやや上部に位置する浅く小さな海蝕洞の石の下であった (図3, 4). それ以外にも, 岩壁と地上部が接する高潮位線付近の礫下 (図5) から発見された. それらは直接海水がかかる場所ではなく, 礫の表面はやや乾燥しているものの礫の隙間や下は適度に湿った状態だった. さらにトビムシやフナムシ, ヨコエビなどの小型の節足動物も多数確認できた.



図6. 調査地. ●は確認地, ×は未確認地

筆者らは2008年3月28日に淡路島においても調査を行った。その理由として、淡路市(旧津名町)の人工島におけるテトラポッド上で本種を確認したというインターネットからの情報を入手したためである。本種が発見されたと思われる場所は、テトラポッドやコンクリートブロックなどで囲まれた埋め立て地で、自然海岸とは程遠い環境である。中村(2005)によると、岩手県山田町においてコンクリート製消波ブロック間から本種を発見している。一見して似たような環境であるにもかかわらず、淡路市と違う点は、コンクリートブロックの下に礫があるかないかである。おそらくテトラポッドを積み重ねた奥の方が、ちょうど海蝕洞のような状態になっており、波や風などの影響を受けない状態ができて生息が可能になっているのかもしれない。淡路市の環境は、完全なる人工構造物から構成され、岩や石、礫はほとんど見られない。さらに微小な節足動物類も確認されなかった。今回は発見できなかったが、もしこの場所で発生が確認できたとすれば、従来言われてきた環境とは著しく異なるため非常に興味深い。

徳島県において本種を確認できたのは、いまのところ美波町木岐の白浜海岸のみである。鳴門市や徳島市、阿南市、美波町などの護岸工事がされてテトラポッドが並んでいるような場所でも調査を試みたが、残念ながら発見には至っていない。やはり海蝕洞などが本来の生息環境ではないかと思われるが、今後、さらに注意深く調査を継続することで本種の分布パターンや詳細な生息環境について明らかにしていきたい。

引用文献

- 青木忠雄. 1954. 海蝕洞にすむウミミズカメムシ. 新昆虫, 7(9): 14-16.
- 青木忠雄. 1958. ウミミズカメムシの生活環境と分布. 新昆虫, 11(12): 26.
- Esaki, T. 1929. A remarkable speo-halophilous water-strider (Heteroptera, Mesoveliidae). Ann. Mag. Nat. Hist., series 10, 4: 341-346.
- 林 成多. 2007. 島根半島におけるウミミズカメムシの生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 115-118.
- 林 正美・久芳裕子. 1993. 神奈川県における注目すべき半翅類. 神奈川虫報, (105): 36.
- 林 正美・宮本正一. 2005. 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三(編)「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」, pp. 291-378. 東海大学出版会, 東京.
- 林 正美・大原賢二. 2001. 徳島県で確認された水生半翅類. 徳島県立博物館研究報告, (11): 7-16.
- 林 正美・大原賢二・岩崎光紀. 2003. 徳島県の水生半翅類. 徳島県立博物館研究報告, (13): 1-27.
- 宮本正一. 1955. ウミミズカメムシ九州沿岸に発見さる. Pulex, (6): 23.
- 長見和正. 1958. ウミミズカメムシの新産地. 新昆虫, 11(2): 48-49.
- 中村 学. 2005. ウミミズカメムシの岩手県における新産地. 岩手県立博物館研究報告, (22): 41-44.
- 日本野生生物研究センター. 1981. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(昆虫類), 全国版. 267p. 東京.
- 大原賢二・林 正美. 2004. 四国におけるトガリアメンボの発見とその分布状況. 徳島県立博物館研究報告, (14): 69-83.

- 友国雅章・林 正美. 2006. 相模灘沿岸部の半翅類 (昆虫綱). 国立科博専報, (42): 285-309.
- 矢崎充彦・石田和男. 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, **60**: 165-200.